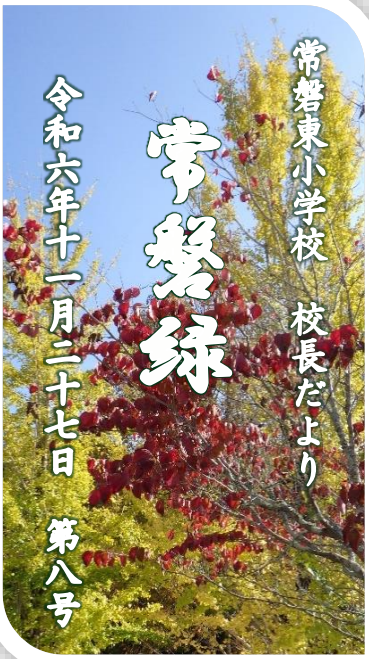

→学習発表会の日は、黄金の銀杏がはらはらと舞っていました。（手前の赤色はヤマボウシ）

銀杏紅葉（いちょうもみじ）一事成した子祝福す

学習発表会前夜、お家の人に明日の目標を尋ねられたある一年生は、「大きな声で」「ゆっくり」「はっきり」せりふを言うと答えたそうである。この子をはじめとする学習発表会での堂々とした一人一人の表現は、子供自身がもつ意欲や生きる力の発露ととらえている。それに加えて、先生の教えをしっかりと自分事として聞ける素直さが、一人一人を一層伸ばしている。

本校の学習発表会は、学びの成果を披露する場であるとともに、大勢の前で大きな声で話すことに慣れさせることもねらっている。だから、冒頭の一年生の目標は、全学年に共通する目標である。発表会後、ある保護者の方から、「中学年にもなれば恥ずかしさが先に立つ子もいるだろうに、あんなに堂々と皆が大きな声を出せるところに毎年感動します。」と声をかけていただいた。

【学習発表会　ダイナミックな「常磐獅子」】

学習発表会を初めて体験する一年生も、二年生のお手本を見てよく学んでいた。上級生が頑張る姿が下級生の憧れとなり、行動を促す。今年も、素晴らしい学びの場となった。

また、仲間と協力して一つのことを成し遂げる喜びを味わうことも、ねらいの一つである。低学年では、せりふを忘れた子にさりげなく教える子が何人もいて劇が滞りなく進んだ。中学年の個人特技の披露では、発表者を盛り立てる周りの子の拍手や掛け声が自然で、教室での温かい人間関係が反映されているようで心が温まった。加えて、せりふを言う子を目立たせるため、周りの子の立ち位置や動きを練習で提案する子もおり、感心させられた。常磐獅子では、一定のリズムを刻む太鼓が篠笛と獅子舞をしっかりと支えていた。器楽演奏では他の楽器と調和を図りながら演奏を盛り上げ、合唱では皆がそろって声を出した。少人数だからこそ一人一人の努力と変化がよく見え、言葉が心に響く素晴らしい歌声や朗読となった。発表後の児童の笑顔と客席からの拍手、そして、他学年の演奏に手拍子を添える参観児童の自然な振る舞いに会場が一体となり、共に充実感を味わった。

代休明けの火曜日、クラブの時間に篠笛の新たな練習が始まった。六年生が指導者となり、三～五年生は一段階レベルを上げた曲目の練習に勤しむ。一年後の晴れ舞台を目標に、仲間との協力体制と絆づくりはこうして築かれていく。

【学習発表会の午後、植栽文字「トキワヒガシ」の植樹準備に来た子供たち】

※十一月二十八日（木）午後一時二十分より、植栽文字「トキワヒガシ」の植樹を行います。これからの常磐東小に思いを巡らせ、学校づくりの一端を担いましょう。